歩いて巡る時を刻むまち、明石

明石は徒歩で行ける観光スポットが目白押し。
食・海峡・歴史・時をテーマに明石のまちを満喫しよう!!

明石焼（玉子焼）

たこ焼きのルーツとも言われている明石を代表する名物。ふわふわの生地の中に歯ごたえのあるタコが入った明石焼は、お出汁でいただくのが基本。市内には約70店舗の専門店があり、地元では玉子焼の名で親しまれている。

傾斜のついた木製のあげ板に盛られる明石焼。原材料には小麦でんぷんの粉である「じん粉」が使われている。

食のまち

明石海峡と昼網がおいしい鮮魚の秘密

瀬戸内海に面し、自然豊かな明石市。中でも明石海峡は魚たちにとって栄養が豊富なうえ、速い潮流で身の引き締まった魚が育つ豊かな漁場だ。また、「昼網」と呼ばれるセリ市により、朝に水揚げされた魚が昼ごろには鮮魚店や料理屋に届けられ、鮮度の高い魚介類が味わえる。自然と人が支える明石の食文化を堪能しよう。

魚の棚商店街

明石の台所として、約400年の歴史を持つ商店街。明石鯛や明石だこをはじめとする昼網の活きのいい魚介類はもちろん、練り製品やお土産など、約100店舗が軒を連ねている。地元では「うおんたな」の愛称で親しまれている。

明石だこ

全国的にも名高い明石だこ。流れの速い潮流に鍛えられた太くて短い足が特徴で、歯ごたえのある触感を持ち合わせている。干しダコやタコ飯、せんべいなどの名産品をはじめ、刺身や天ぷらなどさまざまな料理で楽しめる。

焼きあなご

肉厚で脂の乗ったアナゴは、鯛・タコと並ぶ明石の三大名産品の一つ。特に甘辛いタレをつけ、香ばしく焼き上げた焼きあなごが有名だ。各店によってタレや焼き具合などに特徴があり、違いを楽しむのも味わい深い。お土産品としても人気が高い。

明石鯛

明石海峡の速い潮流と豊富なエサで育まれ、身の引き締まった明石鯛は国内でも一級品。その鯛を丸ごと炭火で焼き、将軍に献上したのが姿焼きのはじまりと伝えられている。現在でもお祝い事や贈答品として喜ばれている明石の特産品。

時のまち

時にまつわる施設や設備が充実

日本標準時となる東経135度子午線が通る明石はまさに「時のまち」。その象徴ともいえる子午線上に建つ天文科学館では、時について学ぶことができる。市内には子午線を示す標識やさまざまな日時計が見られ、整備された都心回遊路「時の道」など、まちを歩けば、時のロマンを感じられるスポットがいっぱい。

明石市立 天文科学館

東経135度日本標準時子午線上に建ち、時や宇宙について学べる科学館。建物そのものが国の登録有形文化財であり、日本の標準時を示す塔時計は明石のシンボルとなっている。現役最古のプラネタリウムもあり。

「時」とゆかりの深い観光スポットを巡るハイキング

通称 時の道（約2km）

❶明石公園

❷明石市立 文化博物館

❸上ノ丸教会

1907(明治40)年、河辺貞吉とS・E・クーパー宣教師により伝道開始。建物正面には壁面日時計がある。

❹本松寺

船上にあった本正寺を移築したとされ、400年以上の歴史を持つ。宮本武蔵作庭の枯山水庭がある。

❺「時の道」を示す標柱

時の道沿いには干支が施された石の標柱が12ヵ所ある。発見しながら歩いてみてはいかが。

▲＝❺ 時の道を示す標柱

❻月照寺

山門は豊臣秀吉が京都・伏見城の薬医門として建立し、後に明石城の切手門に。明治初期、廃城とともにその役目を終え、移築された。天皇や上皇からは短籍等も奉納され、その一部は、国や市の指定文化財。

❼柿本神社

歌聖柿本人麿呂朝臣をお祀りし「人丸さん」として親しまれている。火災難の神の他に学問、文芸、安産、良縁のご利益あり。境内には人麿呂公の伝記、歌碑がたくさんある。

❽トンボの標識

東経135度日本標準時子午線の標示柱。「あきつ」の古名を持つトンボが日本の古名「あきつ島」の象徴として乗っている。SF漫画作家の松本零士さんが幼少期に見て宇宙に興味を持つきっかけとなった標識としても有名。

❾明石市立 天文科学館